

辺野古への新基地建設許すな!
改憲-朝鮮侵略戦争とめよう!

沖縄闘争2016

5/14(土)~16(月)

写真下：3万5千人が集まった昨年の県民大会
写真上：集会後に那覇市内を300人でデモ

全日本学生自治会総連合(斎藤郁真委員長)

03-3651-4861 mail_cn001@zengakuren.jp <http://www.zengakuren.jp/wp/>

沖縄を侵略戦争の出撃基地にするな!

①米日帝の朝鮮侵略戦争の歴史的切迫



沖縄の海兵隊も参加

【ワシントン・ポスト】米軍は原子力空母、戦術戦闘機も

「ワシントン・ポスト」米軍は原子力空母、戦術戦闘機も参加。米韓合同軍事演習「キー・リゾルブ」と野外訓練「フォールイーグル」を韓国と海軍で開始した。過去最大規模実施され、キー・リゾルブは北朝鮮核ミサイルを撃つ想定を主眼とする。先制攻撃を想定したシナリオも含まれる。北朝鮮は同日朝・米同盟を破る。朝鮮半島の緊張が高まっている。

米韓、31万人軍事演習

最大規模 北朝鮮へ攻撃想定

3月8日『沖縄タイムス』

3月7日から32万人を動員した「史上最大規模」の米韓合同軍事演習が始まっています(~4月30日)。北朝鮮への核先制攻撃も含む「作戦計画5015」を初適用した実戦訓練であり、一個の戦争行為です。北朝鮮も「核先制攻撃」を絶叫してミサイル発射を繰り返しており、朝鮮半島は一触即発の戦争前夜情勢です。

重大なのは、沖縄が「最前線出撃基地」であることです。演習には、横田基地(東京)から嘉手納基地(沖縄)に移駐したF22戦闘機が参加しています。さらに、北朝鮮への上陸進撃訓練の主力として、在沖米海兵隊とオスプレイが投入されています。沖縄米軍基地=日米安保体制とは、朝鮮・中国への侵略戦争体制です。沖縄闘争は戦争に突き進む帝国主義に真正面から立ちはだかっています。

演習には昨年の2倍の1万7千人の米軍と、同じく1.5倍の韓国軍30万人が動員されるほか、原子力空母、強襲揚陸艦、オスプレイ、B2ステルス爆撃機、F22ステルス戦闘機など最先端の戦略兵器、特殊部隊が投入される。「作戦計画5015」に基づいて北朝鮮の核・ミサイル基地攻撃、上陸作戦、「斬首作戦」など全面戦争をも想定した攻撃的な訓練が実施されている。

MV22 海兵隊仕様



航続距離	巡航速度	輸送人数
3900km	490km/h	二十数人

普天間飛行場(沖縄県宜野湾市)に24機配備済み

オスプレイとは、ヘリと航空機の機能を併せ持つ新型侵略輸送機。朝鮮半島有事を想定して開発された。しかし、構造上墜落事故が多く「欠陥機」「空飛ぶ棺桶」と呼ばれる。米軍は沖縄の反対を無視して2012年10月に普天間基地への配備を強行。今後、17年度に横田基地への配備も狙っている。

②米兵による女性暴行事件を許すな

3月12日には、那覇市内でキャンプ・シュワブ所属の米海兵隊員による女性暴行事件が起きました。絶対に許せない！ この事件はまさに、朝鮮侵略戦争の発動が切迫する中で引き起こされた事件です。「もう全基地撤去しかない！」という怒りが、沖縄全土で巻き起こっています。

米兵暴行「許さぬ」



全基地撤去求め決議

3月22日『沖縄タイムス』

辺野古 2500人抗議

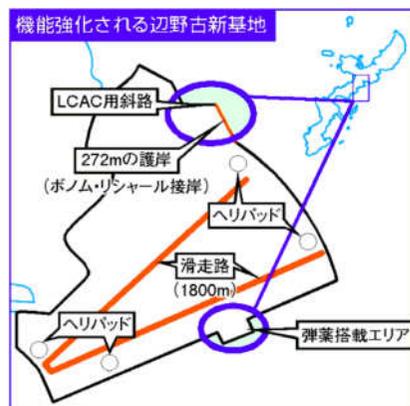
③名護市・辺野古への新基地建設阻止！

政府が名護市・辺野古につくろうとしている基地は、「普天間基地の代替施設」ではなく、基地機能を集約し、新たな軍港機能を備えたオスプレイの侵略出撃拠点です。そして、「危険な基地の移設」という名目で沖縄に新基地建設を認めさせ、沖縄を永久に「基地の島」にする攻撃です。「危険性の除去」「負担軽減」は大ウソです。

安倍政権は、翁長県政との「3・4 和解」で、辺野古での工事一時中断に追い込まれました。それは、朝鮮侵略戦争切迫下で「沖縄の怒り」が巨大な反乱やゼネストとして爆発することを避けつつ、翁長県政の司法への屈服を突いて、より確実に辺野古新基地建設を進める狙いを持っています。しかし同時に、安倍政権の根本的な脆弱性をさらけ出すものです。

韓国・民主労総ゼネストと連帯し、今こそ朝鮮侵略戦争阻止—全基地撤去の全島ゼネストで決着をつける時です！

辺野古に軍港機能



埋め立て申請書
護岸200→272メートル
斜路もアクセスに未記載

↑ 2013年12月21日 琉球新報

新基地 工事中断



3月5日『琉球新報』

軍隊は住民を守らない～沖縄戦の教訓

安倍は、「国の存立を全うし、国民の命を守る」などと安保・戦争法を制定しましたが、「帝国主義国家＝一握りの支配階級」の延命のために、民衆を犠牲にしたのが沖縄戦の真実です。沖縄の怒りの根源には沖縄戦の経験があります。

沖縄戦とは、太平洋戦争末期の1945年、沖縄に上陸した米軍と日本軍との戦いです。その血みどろの戦闘の激しさは、「ありったけの地獄を一つにまとめた戦争」あるいは「鉄の暴風」などと表現されます。

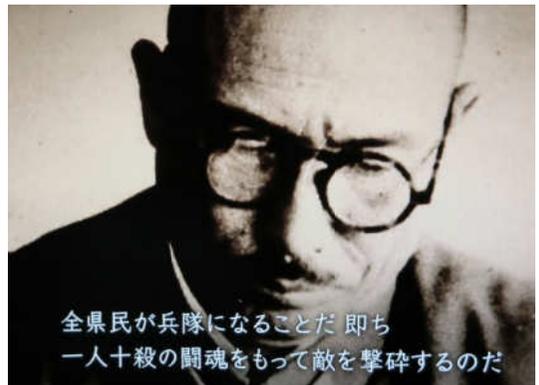
アジア太平洋の支配をめぐる米帝との激突で、敗戦必至の日帝は、「国体護持」のための「時間稼ぎ」として沖縄に「出血持久作戦＝捨て石作戦」を強いました。

そして、「軍官民共生共死の一体化」という国の方針が強制され、住民は子どもから老人まで根こそぎ戦争に動員され、餓死や病死など含めれば15万人、県民の3人に1人が亡くなりました。

今の中高生にあたる学生は、法的根拠もなく、男子は「鉄血勤皇隊」「通信隊」、女子は「従軍看護隊」として学徒隊に編成されました。そして、敵陣への「斬り込み」や「情報伝達」、「負傷兵の看護」などを担われ、半数以上が犠牲になりました。

米軍の艦砲射撃や掃討戦は、家も木も森もすべて焼き尽くしました。それだけでなく、「友軍」の日本兵によって身を潜めていた地下壕や墓から追い出され、食料を奪われて犠牲になった人も多くいました。さらに、「スパイ取り締まり」の名で日本軍が住民を殺害したり、手榴弾での住民の「集団自決」が強要されました。日本軍は、軍の作戦を知りすぎた住民が米軍の捕虜になることを恐れました。そして、「捕虜になれば暴行され殺される」と恐怖心を植えつけ、「捕虜になって辱められるなら、潔く自決を選べ」と「自決」を強要します。また、逃げたり捕まったりした住民を「スパイ」として処刑しました。

「軍隊は住民を守らない」という沖縄戦の教訓は、戦後70年たった今も深く沖縄の人びとの魂に刻み込まれ、戦後の沖縄の闘いの原点となっています。



全県民が兵隊になることだ即ち
一人十殺の闘魂をもって敵を撃碎するのだ

当時の沖縄司令官だった長勇陸軍第32軍参謀長(NHKスペシャル「沖縄戦 全記録」)

悲鳴と煙 癒えぬ傷

読谷・チビチリガマ「集団自決」70年

戦後70年

2015年4月2日『沖縄タイムス』

上地 竹さん **ガマ追われ 後ろめたさ**
上原豊子さん **子を刺す母 毒注射に列**

「戦争は助かった人にも痛撃です」と語り上げる竹さん(左)と豊子さん(右)。

帝国主義打倒し、すべての基地撤去へ!

●「米軍基地の島」＝沖縄の現実

本土「復帰」から44年、米占領時代と変わらぬ、いや、より悪化する「基地の島」の現実に怒りが爆発しています。日本の面積の0.6%の沖縄に、在日米軍基地の約74%が集中しています。沖縄本島の2割は基地なのです。東アジア最大の軍事施設＝嘉手納基地は、町面積の約83%を占有しています。普天間飛行場は宜野湾市のご真ん中を占有しています(写真右下)。土地に占める基地面積の割合(密度)は、沖縄は本土の500倍です。沖縄米軍基地は日米安保体制の最大実体であり、安保は沖縄によって成り立っています。

アメリカは沖縄を「太平洋の要石」と呼び、沖縄戦をへた軍事占領以来、一貫して米軍のアジア・太平洋戦略の最重要拠点と位置づけてきました。沖縄は朝鮮戦争、ベトナム戦争、イラク・アフガン戦争などあらゆる戦争の出撃・兵站基地とされてきました。駐留兵士の6割を占める海兵隊は、敵地襲撃を任務とする「殴り込み部隊」であり、帝国主義の本質を体現する純然たる侵略専門部隊です。その任務と実態は、帝国主義者が言うような「海外からの侵略を抑止する」「アジアの平和と安定のため」という建前でごまかせるものではありません。

軍事要塞化された沖縄で、人々の生活は常に「戦争と隣り合わせ」の状態を強いられてきました。基地の騒音・爆音の被害、違法な夜間離発着訓練、軍用車によるひき逃げ、米兵による婦女暴行事件などの凶悪犯罪が横行しています。

●戦後世界体制と日米安保体制

日本帝国主義の敗戦を機に、植民地支配から解放された朝鮮や中国では民族解放闘争が爆発、日本国内でも労働者階級の闘いが一挙にゼネスト、権力奪取



の寸前までのぼりつめます。こうした「戦後革命」のうねりを押さえ込むためにつくられたのが、「平和憲法」と沖縄売り渡しを柱とする日米安保体制でした。

朝鮮戦争の最中にサンフランシスコ講和条約(52年4・28発効)と日米安保条約が締結され、沖縄は日本独立後も「分離」されて米軍支配下に置かれ、米帝はアジア軍事支配の要として沖縄の軍事要塞化＝永久核基地化します。「日米安保体制」は日本とアジアの戦後革命を圧殺し、米帝の世界支配を維持する暴力装置としてあったのです。敗戦国・日帝は、米帝に沖縄を売り渡すことで「平和国家・日本」として延命しつつ、日米安保同盟のもとで帝国主義的復活を目指します。

●「5・15」＝基地撤去なきペテン的「返還」

ベトナム戦争と日米安保に対し、70年安保・沖縄闘争が沖縄一本土で爆発します。日米政府はこれへの反動として、1972年5月15日にペテン的「返還」を強行しました。政府の「核抜き・本土並み」のかけ声とは裏腹に、民衆の「復帰」要求を逆手にあくまで基地と日米安保体制を維持する攻撃でした。

「返還」の狙いは、基地の負担軽減ではなく、基地機能の強化と本土－沖縄との意識的な分断支配にありました。

労働者・学生はこれをぶち破り、米軍基地撤去＝沖縄奪還を掲げて立ちあがります。私たちが5・15沖縄闘争を闘うのは、72年5月15日に日米政府が強行した沖縄の分断支配体制が絶対に許せないからです。



●「普天間基地返還」という大ウソ

1995年の「少女暴行事件」に対し、同年10月に10万人県民大会が大爆発します。沖縄に基地を押しつける日米安保と「復帰体制」の根幹が揺らぎ始めたのです。

これに震えあがった日米両政府は96年、「日米安保再定義」と一体で、「普天間基地の返還」で合意したと発表しました。あたかも、“沖縄の基地撤去の要望に応えた”かのように大宣伝されたのです。

しかし、その後に明らかになった実態は、日米安保の飛躍的強化(グローバル化)であり、「普天間返還」も「名護市・辺野古への県内移設」が前提条件であり、オスプレイ配備など、沖縄の侵略出撃基地としての機能は大幅に強化されるものでした。

沖縄の怒りの爆発に追いつめられながら、これに応えるふりをしてもっとひどい計画を飲ませようとしたのです。まさにペテン的「返還」と同じやり方です。



普天間返還で合意したと発表する橋本

●基地建設を19年阻止してきた辺野古の闘い

辺野古の闘いは、19年間にわたって新基地建設を実力で阻止してきた偉大な闘いです。“札束で頬を叩く”国のやり方に対し、沖縄戦を体験したおじやおばあが「戦やならん」と立ち上がりました。

04年4月にボーリング調査が始まり、座り込み阻止行動を開始。攻防渦中の同年8月13日、普天間



青年・学生が先頭で基地建設を実力で阻止

基地所属の米軍ヘリが基地に隣接する沖縄国際大学に墜落・炎上する大事故が起きます。ところが、米軍はわずか9日後に事故同型機のイラク・ファルージャへの出撃を強行します。事故はイラク侵略戦争と一体だったのです。政府は「危険な基地の移設を急ぐ」と作業を加速させますが、座り込みは海を含めた強力な実力闘争に発展します。そして1年後、「海上案」は実力で粉碎されたのです。



基地前の座り込み。機動隊の排除にスクラムで抵抗

それから9年後、安倍政権は新たな「沿岸案」のボーリング調査を開始。しかし、現在もキャンプ・シュワブ前では資材搬入を阻止する座り込みが闘われ、海でも抗議が続けられ、代執行は「和解」で仕切り直し。闘いは必ず勝利します。安倍を振り返りにし、ゼネストで決着をつけよう！

戦争と基地をなくす力は、 労働者・学生の団結と国際連帯だ！

◇「死すべきは基地」、労働者のゼネストが戦争を止めた！

基地沖縄の矛盾を背負った基地労働者の存在と闘いは、歴史的に、日米安保体制の中核である米軍基地政策と激突してきました。基地労働者の闘いは、沖縄の労働運動・階級闘争を牽引し、「基地労働者が動くとき沖縄が動く」と言われてきました。

B52爆撃機の墜落・炎上事故に対する1969年2・4ゼネストが挫折する中、当時の「全軍労」指導部をのりこえるべく、全軍労牧港支部青年部（牧青）が70年2月4日に結成されます。牧青は、「ベトナム戦争絶対阻止」「戦争の根源である帝国主義を労働者自身の力で打倒する」という労働者国際連帯＝革命の立場に立ち、



人間として、労働者として、基地で働く意味を職場で徹底論議しながら、「返還」合意後の大量解雇攻撃に対して、「労働者は死んではならない。死すべきは基地だ」「解雇撤回・基地撤去」を掲げて闘いました。それは、「ストライキで基地機能を止め、内部から解体し、労働者の手に奪い返す」＝基地奪還、沖縄奪還の闘いであり、プロレタリア自己解放闘争としての人間労働奪還の闘いでした。

70年のコザ暴動翌日に米軍が発表した3000人の大量解雇に対し、牧青は3波のストを貫徹。71年には「ペテン的返還協定」粉砕の二度の全島ゼネスト、11・10暴動の先頭に立ちます。さらに翌72年の無期限ゼネスト（指導部の逃亡を弾劾して37日間スト）、報復弾圧と闘う「基地内決起」を闘います（上写真）。基地内からの実力デモは米軍を恐怖させ、「基地が墓場になった」と言わしめました。

◇労組書記長の雇い止め撤回！ 闘う労働組合つくろう！

ブラック企業を許さない！ 沖縄県うるま市にあるコールセンター職場で結成された労働組合(日本IBMビジネスサービス労働組合)の書記長が雇い止め＝解雇を受け、怒りの解雇撤回闘争に立ち上がっています。「99%が非正規職」の職場で、ついに青年労働者が団結して立ち上がったのです。

95年の「沖縄の怒り」の爆発を押さえ込むために「普天間返還(移設)」と一体で導入されたのが「特区」(情報特区、金融特区など)でした。基地負担の“代償”としての雇用確保が名目です。しかしその本質は、低賃金を売りにした外注委託産業の誘致。実際、コールセンターで働く労働者約2万人の8割が非正規雇用です。これ自身が労働者の団結を破壊し、無権利化して基地労働力を確保する基地押しつけ策です。非正規職場での闘いは、資本と安倍政権を震え上がらせるとともに職場と沖縄、全国の労働者に勇気を与え、団結を拡大しています。

◇「オール沖縄」突き破り、沖大から反戦ストライキを！

沖縄大学学生自治会委員長 赤嶺知晃



目の前で始まる戦争や辺野古新基地建設。なのに沖大ではビラまき禁止、集会禁止「ルール」が勝手につくられ、声一つあげられない。多くの学生が、バイトや奨学金でやっと大学に来ている。なのに、授業でも「最低賃金以下でも声を上げるな」と言われる。学生の誇りが奪われ、毎年4人に1人が辞めていく。これが、「自由な学風」を売りにし、「オール沖縄」派として多くの教授が「反戦・反辺野古」の論陣を張る沖縄大学の実態です。こうした現実を変え、大学を学生の手に取り戻すために私たちは立ち上がり、2014年5月、当局と激突する反戦集会(右下は集会後にまいたビラ)と全学投票をやり抜いて学生自治会を再建しました！

再建から1年後の昨年5月、辺野古新基地建設反対の3万5000人集会と、その熱気を引き継ぐ学内集会が、多くの沖大生の参加と注目で解放的に闘いとられました。それに続く執行部選挙でも、1年前を倍する投票



数と支持票が集まりました。「韓国・民主労総ゼネストと連帯した沖縄全島ゼネストこそ、戦争と基地建設を止める力だ。沖大から反戦ストに立とう」という訴えに多くの学生が支持を寄せたのです。

これに対して、仲地博学長は、5月の学内反戦集会を理由に私と盛島副委員長を訓告処分にし、不服申し立ても却下しました。しかも、その文書の中で仲地は、“学生の集会や演説は「周囲に対して少なからぬ影響を与えることが不可避である」から「影響を最小限にとどめる」ことが必要”、“「大学の学問の自由と自治」を守るために大学が自由に学生集会を制限することは当然”と言い放ったのです。これこそ仲地の言う「学問」や「大学自治」が、いかに学生の存在や決起に敵対し、安倍の戦争・改憲を支えるものであるか、逆に仲地が決起してくる一人ひとりの存在、沖大学生自治会の2年間の闘いにどれほど恐怖しているかの証明です。不当処分は必ず撤回できます！

「オール沖縄」の核心は、沖縄の怒りを安保や体制の枠につなぎ、ゼネストと革命を絶対にやらせないことにあります。しかし、沖縄の怒りは今や全基地撤去＝革命以外に出口のない怒りです。私たちは、この怒りの先頭に立ち、3月の京大弾圧粉碎の勝利を引き継いで、沖大から反戦ストライキを闘う決意です！

辺野古新基地建設止めよう！ 沖縄大学を戦争反対のとりでに！

赤嶺候補に信任の156票



投票結果	
投票総数	209
信任	156
不信任	41
無効	12

本員票 赤嶺 知照 (22歳3) 副員票 星野 文昭 (22歳4)

◇沖縄闘争の先頭で闘った星野文昭さんを取り戻そう！

70年安保・沖縄闘争は本土ー沖縄が一体で爆発しました。その頂点が71年11・10全島ゼネストと連帯した、11・14渋谷暴動闘争です。追いつめられた政府は、闘いの先頭に立った星野文昭さんをデッチあげ逮捕し、無期懲役刑にして今も徳島刑務所に閉じ込めています。

星野文昭さん

高崎経済大学生として、1971年沖縄返還協定批准阻止闘争(渋谷暴動)の先頭で闘い、でっちあげ「殺人罪」で無期懲役刑。41年の獄中闘争を闘う。現在は徳島刑務所に在監。



星野さんは無実です。物的証拠は一切ありません。あるのは国家権力のデッチあげた6人の嘘の「供述」のみです。権力は、星野さんの無実を百も承知で、獄中に閉じ込め人生を奪っています。現在、全証拠開示を求める100万人署名や絵画展が全国で取り組まれています。検察官が隠し持つ証拠を開示させ、再審・無罪をかちとろう！ 労働者・学生の団結の力で星野文昭さんを取り戻そう！

<沖縄闘争2016 日程>

●5月14日(土)

※午前中に那覇空港に到着

- 11時 県庁前に集合
～ひめゆり平和資料館を見学
- 15時 県庁前から那覇市・国際通りをデモ
- 18時 「復帰」44年-5・14沖縄集会



ひめゆりの塔

●5月15日(日)

- 午前 普天間基地と嘉手納基地を見学
沖縄県民大会に参加
- 18時 全国学生交流集会



極東最大の米軍基地・嘉手納飛行場

●5月16日(月)

沖大集会と那覇市内デモ(予定)

4/28沖縄デー闘争へ!!

私たちは4月28日に「沖縄デー闘争」を呼びかけます。1952年4月28日発効のサンフランシスコ講和条約と一体で日米安保条約が締結され、沖縄は日本から分離→米軍統治となりました。「4・28」とは、「屈辱の日」であり「沖縄の怒り」の原点です。この日に国会デモと合わせ、法政大学でデモを行います。

10年をこえる法大闘争は、「逮捕・起訴・処分」をのりこえ、新自由主義大学をひっくり返す学生反乱の原点です。基地をなくす闘いと、大学・教育を取り戻す闘いは一体です。4～5月、全国学生は3ヶタの規模で法大→沖縄現地へ駆けつけよう!!



昨年4月28日の法大包囲デモ